

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	新宿区中落合 3-21-10
施設名	ウズブック保育園中落合

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ことば」「異文化コミュニケーション」

<テーマ設定理由>

当園は園の立地もあり「異文化」に対して興味関心が高い子どもたちが多く在籍します。

開園当初より「外国のあいさつ」をテーマにした絵本の読み聞かせなどを通じて、「異文化」に親しむ環境を整えてきました。日々の保育の中で、子どもたちが「この国はどこにあるの?」といった素朴な疑問を自ら発する場面が増えており、このような好奇心や探究心をさらに広げていきたいと考えました。外国人の先生とのやり取りや発達に合わせたあそびを通じて、言語の感覚だけでなく「自分と他者」「文化」の違いを楽しみながら感じてほしい、臆せず表現して自己肯定感を高めてほしいと考えて、本年度のテーマを「ことば」「異文化コミュニケーション」としました。

2. 活動スケジュール

年間を通して、外国人講師との交流や異文化紹介の時間などを活用し、異文化に触れて自分たちで表現することを楽しみました。単に異文化といっても漠然としてしまうため、年齢やクラスごとに「世界のおまつり」「世界の楽器」「世界の乗り物」「世界の家」「世界のダンス」など具体的なテーマを取り入れ、外国の講師と伝え合いを楽しみました。

・主な活動

【3歳】4～7月：世界の楽器／8～12月：世界の乗り物／1～3月：世界のダンス

【4歳】4～7月：世界の祭り／8～12月世界の楽器／1～3月：世界の家

【5歳】4月～7月 世界のまつり／8～12月 世界の楽器／1～3月：世界の家

活動スケジュールつづき

<年間を通した活動の基本的な流れ>

- **【問いの設定・導入・事前調べ】** クラスごとにテーマに沿って、子どもたちが気になること、知りたいことなどについて調べます。
WB イングリッシュの事前シートも活用しながら、自分たちで「世界の・・・ってどんなものかな？」とイメージを膨らませて話し合ってみます。
- **【外国人講師とのレッスン・異文化交流】** 外国人講師（テル先生）とのレッスンで、映像や音を通して各テーマについて教えてもらいます。さらに、講師の先生の国のことを聞いたり、呼び方などを教えてもらったりします。逆に、自分たちが調べたことを絵や言葉で講師に伝えてみます。
- **【子ども会議と製作・体験】** レッスンで映像に出てきたり興味を持ったりしたものについて、自分たちの手で素材を使ってお神輿や楽器、家などを作ってみたり、実物に触れたりして楽しみます。その他、「自分たちでお祭りをするなら何をしたいか」などを発表し合う『子ども会議』を行ったりします。
- **【表現活動】** 作った楽器を弾いてみたり、音楽やおまつりを見聞きして感じたことを絵で自由に表現したり、完成したお神輿や景品を講師に見せて日本の文化を紹介し、最後はお神輿と楽器を持って近隣の施設（目白の里）へお披露目に行き、地域の方との交流を通じて探究を深めます。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材・道具〉

- プロジェクター、ホワイトボード、外国人講師（オンライン英語）、WB イングリッシュのプログラムサポート
- 段ボール、廃材、養生テープ、絵の具、カラーポリ袋、金色のシート、お花紙、丸シール、鈴など
- お神輿、ヨーヨー、風船
- タンバリン、カスタネット、すず、ウクレレなどの楽器、玩具、世界の楽器についての映像や音
- 世界の国の街並みや挨拶（乗り物編）、気球の写真や映像 など

〈環境設定〉

- クラスごとにテーマ（世界のまつりや楽器、家、ダンスなど）について調べる機会を設けました。
- 外国人講師（テル先生）とのレッスンで映像や音から学びました。テル先生の言葉を子どもたちに分かりやすく伝え、子ども達が先生に質問したり、見せたいものを見せたりする気持ちを見守りながら、必要に応じて声掛けをしました。これにより、世界の文化について深く知れる環境を作りました。
- 全員がやりたいことを伝えられるよう一人ずつ発表する機会を設け、子ども同士のやり取りを見守りました。各グループに分かれ、子どもたちの想像を形にできるよう援助しました。
- レッスンで興味を持ったもの（楽器や家など）を素材を使って作ってみる環境を用意しました。おまつりの活動では、実際のお神輿の映像を見ながらどんなお神輿を作るか考え、お神輿作りに取り組めるようにしました。
- 製作において、子どもたちの好きな色のポリ袋を使い、自分だけの衣装が作れるよう見守りました。また、もらって嬉しい気持ちになる景品が作れるよう声掛けをしました。
- 作った楽器を弾いてみたり、感じたことを絵で表現して楽しむ環境を整えるとともに、完成したお神輿と楽器を持って目白の里まで向かい、地域の方に披露する機会を設けました。

4, 活動の内容

【世界のおまつり】 お祭りでやりたいことを一人ずつ発表し合い、出た意見をもとに、すだち組を中心にレストラン・おみくじ屋・お化け屋敷の3店舗に分かれました。アイスクリーム作り、おみくじ作り、お化け屋敷の色塗りや、好きな素材を自由に組み合わせた衣装作りを行いました。また、映像を見ながら話し合い、協力してお神輿を制作しました。風船やヨーヨーなどの景品は、難しいところは保育者と一緒に作りました。完成したお神輿やヨーヨーをテル先生に見せてフィリピンのお祭りについて話を聞き、最後はすだち組がお神輿を、すもも組が楽器を持って近隣の「目白の里」まで行き、おじいちゃんやおばあちゃんに披露しました。

【世界の乗り物】 気球やロンドンバスなど、馴染みのない乗り物の映像を見て興味を持ちました。普段の乗り物との違いに気づき、想像力を働かせて自分自身が乗り物になりきる楽しさを体験したり、制作した乗り物で遊んだりしました。また、テル先生に「これ、どうやって使うの?」「フィリピンではこんなのに乗るの?」と異文化について質問し、乗り物の特徴を教わりました。

【世界の楽器】 身近な廃材や玩具を楽器に見立てて演奏したり、テル先生に「これはなんていうの?」と声をかけられたりしてやり取りを楽しみました。世界の楽器の音を聴いて大きな紙に絵で表現したり、音に合わせて体を動かしたりして自己表現の幅を広げました。また、英語の簡単な文章で自分の名前や楽器を伝える活動も行いました。

【世界の家】 自分たちの家を制作して先生に見せ、逆に先生の家の様子を教えてもらうことで、日本との文化や生活の違いを感じる活動を行いました。

【世界のダンス】 いろいろなダンスがあることを知り、音楽に合わせて体を動かして踊ることを楽しみました。また、自分たちのダンスをテル先生に披露しました。

5, 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

- **【世界のおまつり】** 世界のお祭りの動画を見て「面白いお面つけてるね」「いろんなお祭りがあるんだね」と目を輝かせていました。話し合いでは「景品は同じ方が取り合いにならないかな?」「小さい子が口に入れてたら危ないかな?」と乳児のことも想像しながら意見を出し合っていました。お神輿作りでは「金ピカにしたいな」「鳥居知ってる、作ってみたい」とアイデアを取り入れました。テル先生には「おまつりでヨーヨー釣りっているのがあるんだ。先生、知ってる?フィリピンではおまつりで何かもらえる?」と質問し、異文化への関心を深めていました。目白の里では「わっしょいわっしょい」と声を合わせ、褒めてもらい満足そうにしていました。
- **【世界の乗り物】** 「なにこの大きなバス!みんなで乗ってみたいね」と赤いロンドンバスを見て話す姿や、「どうやって気球は飛んでるの?下から炎が出てる!」と初めて知ったことをつぶやく姿がありました。「大きいね!すごい!初めて見たよ!」と世界の乗り物に驚き、違いに気づいて楽しんでいました。
- **【世界の楽器】** 「これはなんていうの?」と楽器に興味を示しテル先生に質問したり、「あー!音が鳴ってる!」と楽器の音に反応したりしていました。「マリンバだよ」と廃材や玩具で楽器の真似をしながら話す姿も見られました。
- **【世界の家】** 自分たちの家と講師の家の違いについて、やり取りを楽しむ姿が見られました。
- **【世界のダンス】** 音楽に合わせて自然に体を動かして踊り、「自分たちのダンスを英語講師に見せてあげたい」という気持ちが強くなり、実際に披露しました。テル先生から「Amazing!」と褒められると、その言葉を嬉しそうに真似したり、子ども同士で互いに褒め合ったりしてやり取りを楽しむ姿が見られました。

5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは、年間を通して世界のお祭り、乗り物、楽器、ダンス、家など、さまざまな言葉・異文化に触れる活動に取り組みました。

世界のお祭りでは、レストラン・おみくじ屋・お化け屋敷やお神輿作りを行い、完成した作品や景品を英語講師に見せながら遊びに取り入れる姿が見られました。その後、近所の方や保護者を招いた夏祭りに発展させ、活動の楽しさを広げることができました。

世界の乗り物活動では、気球や馴染みのない乗り物に興味を持ち、子ども自身が乗り物になったり、制作した乗り物で遊んだりしました。英語講師に「これ、どうやって使うの?」「フィリピンではこんなのに乗るの?」と質問することで、文化や乗り物の特徴を理解しながら楽しむ姿が見られました。

楽器活動では、身近な物や世界の楽器に触れ、演奏や絵で表現するなど自由な発想で表現することを楽しみました。英語で英語講師とコミュニケーションをとりたい気持ちが強くなり、英語の簡単な文章で自分の名前や楽器を伝える活動にもつなげていきました。

世界のダンスでは、音楽に合わせて体を自然に動かし、その様子を英語講師に褒められると、その言葉を真似したり、友だちと互いに英語で褒め合ったりして楽しむ姿も見られ、伸び伸びと英語表現を楽しむ様子に、講師との一体感が感じられました。また、世界の家についても知り、自分たちの家を制作して講師に見せたり、講師の家の様子を教えてもらうことで文化の違いを学ぶ機会となりました。

年間を通して、英語講師とのやり取りを通じて、異文化や言語への関心が深まり、制作・表現・遊びを主体的に楽しむ姿が見られました。また、自分の好きなものを英語で伝えたり発表したりする活動もたのしむことができ、言葉や異文化に触れる経験が、さらに世界への興味を広げるきっかけとなったと感じました。